



1月26日、第63回文化財防火デーに合わせ、横山の「昌明館付属屋及びび門」で消防訓練が行われました。

建物から出火し要救助者が取り残されたという想定で訓練が行われ、火災の第一発見者は大声で「火事だ！」と叫んで応援を頼み、駆けつけた地元住民がバケツリレーで初期消火を試みました。続いて消防署員が火災現場に突入し、逃げ遅れた要救助者を救出した後、消防署員と消防団員が連携し一斉放水を行

第63回文化財防火デー

い訓練を終了しました。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に奈良県の法隆寺で国宝の金堂壁画が火災で焼損したことを機に制定され、毎年全国各地で消防演習など文化財を火災から守る運動が行われています。

昌明館は江戸時代中期に7代藩主吉川経倫の隠居所として建造されたもので、現在は長屋と門が残されており、平成7年に市の有形文化財に指定されています。

文化財保護課 ☎04452

地域と共に文化財を守る

市政 PICK-UP



▲消防訓練には地元住民や消防団員、消防署員などが参加

安心安全対策などを要請

1月20日、岸信夫外務副大臣らが市を訪れ、空母艦載機の厚木基地から岩国基地への移駐について、福田良彦市長、桑原敏幸議長らと会談しました。米側の計画では空母艦載機の移駐が平成29年7月以降から段階的に行われることや移駐に伴う航空機騒音などについて説明がありました。

これを受けて1月27日に市議会全員協議会が開催され、岸外務副大臣らの説明に対し、市議



▲全員協議会で説明を行う岸外務副大臣

空母艦載機の岩国基地への移駐について説明

会の各会派から質疑が行われました。

2月5日には、菅儀^{よむひで}偉内閣官房長官らが市を訪れ、対応した福田市長らに、F-35Bなどの受け入れに謝意を述べるとともに、空母艦載機の移駐について理解を求めました。これに対し福田市長は、43項目の安心安全対策と地域振興策などについて、国が目に見える形でしっかりと対応していくよう要請しました。
 岡基地政策課 ☎ 5024



▲会談する福田市長（右側手前）と菅内閣官房長官（左側手前）

東京都市圏からの観光客誘致を目指し、2月8日、福田良彦市長をはじめ26人の岩国市観光宣伝隊が岩国錦帯橋空港から東京へ向けて出発しました。
 空港ロビーで開催された出発式では、観光宣伝隊の顧問を務める福田市長が「開港5年目を迎えた錦帯橋空港は、利用者も150万人を突破し堅調に推移している。この度沖縄線が通年運航で復活するなど利便性も高まり、今後空港を基軸とした岩国の観光振興と地域経済の活性化

空港を活かして観光PR



▲観光宣伝隊の出発に当たり、意気込みを述べる福田市長（右から2人目）

岩国市観光宣伝隊

化につなげていきたい」と述べました。

観光宣伝隊の派遣は昭和54年度から行われており、3日間の行程では旅行会社などへのトクプセールスやマスコミ訪問などの観光PRを行いました。羽田空港のターミナルでは観光展を行い、シロヘビの展示や岩国寿司の模型の設置、岩国の特産品が当たる抽選会を行うなど、多くの来場者に岩国への訪問を呼び掛けました。

岡観光振興課 ☎ 5116



▲羽田空港では観光展を開催